

サンマとカケル

女川つながる人々

作品資料

<宣材ダウンロードサイト>

<http://heisei.pro/onagawamovie/>

ID: press パスワード: 0507

ポスタービジュアル、場面写真などの宣材のダウンロードができます。

コピーライト表記 ©2016 Japan-Qatar Partners

【問合せ】

平成プロジェクト 尹、黒田 ^{ユン} TEL : 03-3261-3970 E-mail: sanma@heisei.pro
102-0092 東京都千代田区隼町 3-19 清水ビル 2階 Fax 03-3261-3971

復興5年目、今だからこそ、向き合える過去がある。見えてきた未来がある。 宮城県女川町一刻々と変わる人と町を見つめるドキュメンタリー映画、完成！

東日本大震災からまもなく丸5年。宮城県女川町は、住民の1割近くが犠牲となり、8割近くが住まいを失い、被災した全ての市町村の中でも人口比では最も激しい被害を蒙った。町の中心部は根こそぎ津波にのまれ、失うものは何もなくなった。そんな絶望から人々はどうやって立ち上がり、生きているのか？そして中東カタルとの絆とは？若者がリードする、泣き笑いの女川復興の軌跡、切なくて逞しい人間の底力に迫った本作品、2年間の撮影期間を経てようやく映画が完成した。

<作品概要>

監督：乾 弘明

ナレーション：中井 貴一

出演：阿部淳、石森洋悦、阿部由理、阿部美奈、須田善明、他女川町民約30名

配給：東京テアトル

制作：花組

製作：日本カタルパートナーズ／平成プロジェクト

公式サイト：<http://onagawamovie.com/>

2016年／日本／73分／カラー／ビスタサイズ

コピーライト表記 ©2016 Japan-Qatar Partners

<スタッフ>

撮影監督：長塚 史視

構成：釜澤 安季子／乾 弘明

編集：高原 淳

音楽監督：引地 康文

音楽：井内 竜次

制作プロデューサー：尹 美亜

プロデューサー：益田 祐美子

<劇場公開>

2016年5月7日東京・ヒューマン trusts シネマ有楽町を皮切りに、
仙台・桜井薬局セントラルホール、名古屋・名演小劇場、大阪・シネ・リーブル梅田、
岐阜・大垣コロナシネマワールド等全国11か所で順次公開

<STORY>

宮城県女川町。「あの日」、この町では住民の1割近くが犠牲となり、8割近くが住まいを失った。あれから3年半後の2014年9月、震災の年も休むことなく続けられた秋刀魚収穫祭では、大勢の客がサンマの煙に包まれた。女川町の復興に、最初に希望の光を灯したのは中東カタル。大型冷蔵冷凍施設「マスカー」の操業が復興の第一歩となった。町内は、町の中心部全部を更地にして嵩上げする工事が、2015年3月のJR女川駅開通「町びらき」に向けて休むことなく進んでいた。町づくりの中心になっているのは若者たち。水産業を営む阿部淳（あつし）さんは、震災の翌年3月に祭りを企画。批判を浴びながらの開催だったが、その祭「復幸祭（ふっこうさい）」も大きく成長。JR女川駅の開通に合わせた2015年の復幸祭も、津波が来たら高台に逃げることを伝承する「復幸男」レースの、「逃げろー！」という合図で始まった。すべては津波の記憶を未来に伝えるため…。そして2015年12月、駅前商店街とプロムナードがオープン。新しい女川のカタチが見えてきた。カタルが灯した復興の灯は、大きな希望となって女川の未来へ続いていく。

<制作について>

企画スタートは2013年秋。2014年3月からリサーチなど準備開始、2014年7月29日クランクイン。まずは刻々と変わりゆく町の実景から撮り始め、以降20回近くに及ぶロケを続けて2015年12月27日にクランクアップ。町内では約10か所で定点撮影を実施しました。

★見どころは、2年間定点カメラで撮り続けた町の風景！！
刻々と刻々と変わる町を映像に納めました！

<主な登場人物>

阿部淳（あべ あつし）

1974.8.7 生まれ。若者のリーダー的存在。3月の「復幸祭」言い出しっぺ、実行委員長。女川を代表する名産品、サンマの昆布巻き「リアスの詩（うた）」を製造するマルキチ阿部商店を経営。母・すが子さん（1946.6.19 生まれ）も登場。

石森洋悦（いしもり ようえつ）

1956.6.25 生まれ。カタールの支援で建設した大型冷凍冷蔵施設「マスカー」の立役者（事業主である女川魚市場買受人協同組合の副理事長）。カタールフレンド基金へプレゼンに行き見事支援を勝ち取った。町内では若者の羨望と尊敬を集める。サンマ屋の石森商店社長も務める。

阿部由理（あべ ゆり）

1961.1.21 生まれ。震災後に町役場に努める夫を病気で亡くした未亡人・主婦。女川で生活する立場として町の復興を見つめる。震災の日は、たまたま北海道の大学から帰省していた長女・美奈のリードで避難して津波を逃れた。

阿部美奈（あべ みな）

1990.7.19 生まれ。由理さん長女。大学生当時、たまたま実家に帰省していた時に被災。震災後に考えの変化が起こり、大学卒業後は上京して芸人を目指す。（松竹芸能所属）

須田善明（すだ よしあき）

1972.6.3 生まれ。女川町長。大学卒業後、電通東北勤務、平成11年宮城県議に初当選して3期務める。震災後、住民に押されるように2011年11月女川町長に就任。若き町長として復興と新しい町づくりをけん引する。

他女川町民約30名が出演

<監督 乾 弘明>（いぬい ひろあき）プロフィール

1963年 北海道生まれ。1986年『ニュースステーション』（テレビ朝日）で、ディレクターになる。その後も主にドキュメンタリー番組の制作を中心に活躍し、『素敵な宇宙船地球号』（テレビ朝日）など多くの番組を制作。特に、自然生態、環境問題、水中番組で高い評価を得る。2010年より『池上彰の学べるニュース』（テレビ朝日）プロデューサー。現在『相葉マナブ』『しくじり先生 俺みたいになるな!!』等多くの人気番組を手がける。ドキュメンタリー映画としては5作目となる。【過去の作品】『平成職人の挑戦』『蘇る玉虫厨子』『海峡をこえる光』『李藝 - 最初の朝鮮通信使』

<シンガーソングライター 幹 miki プロフィール>

宮城県蔵王町在住。雄大な自然に囲まれた中で暮らしながら日々創作活動をしている。専門学校在学中に音楽プロデューサー須藤晃氏（尾崎豊、玉置浩二、浜田省吾等プロデュース）にその才能を認められ、同氏プロデュースによる村下孝蔵トリビュートアルバム「絵日記と紙芝居」（2006年リリース）に唯一アマチュアで参加（ジュジュ名）。その後、地元宮城・仙台を拠点に本格的な音楽活動を始め。昨年6月には、台湾でもCDデビューを果たした。震災直後より石巻や南三陸、女川、七ヶ浜などの沿岸部において、音楽活動による支援活動を現在も行っている。

● 幹 miki コメント

「女川と繋がりが出来て、年2回歌いに行くようになって3年。女川の皆さんは、うつむいては
どうしようもないと、いつも明るく出迎えてくれました。私にできることは、これが復興した女川だ、
と言えるまで、ずっとそばで寄り添い見守っていくこと。胸の中の悲しみに向き合う時に歌がそばに
あってほしい。女川にずっと足を運ぶ…、ただそれだけだけど、一歩ずつ前に進んでいる女川をこの
目で見てきた思いを、本作品のために再レコーディングした『女川リミックス』に込めました。」

● 「光」について

幹 miki さんが10年前、高校生の頃に作曲。母親への感謝を込めて、家族の絆を綴った作品。2011年、
楽天スタジアムでの試合開始前、避難所で肩を寄せあっている被災した方々の写真を写した映像に合
わせて「光」が流れた。2015年12月女川駅前商店エリアまちびらきに招かれ歌っていた幹 miki さん
を、ロケに来ていた乾監督が聞き、映画のエンディングにしたいと強く希望して実現した。本作品の
ために弦楽器の生演奏を加えた新たな編曲で再レコーディングし、「女川リミックス」と名付けられた。

<プロデューサー 益田 祐美子> (ますだ ゆみこ) プロフィール

1961年岐阜県高山市生まれ。金城学院大学卒。大学在学中からNHK岐阜・名古屋でニュースや子ど
も向け番組に出演。結婚後、主婦のかたわら、女性誌で記者として活躍。出産後、娘との約束から
2003年イランとの合作映画『風の絨毯』製作。2008年、株式会社平成プロジェクトを立ち上げ、数々
の映画やテレビ番組をプロデュース。講演会・セミナーにて講師・司会者としても活躍中。著書に『3
億5千万円を集めた主婦は、世界をつなぐ映画プロデューサー。』（河出書房新社）

<大型冷蔵冷凍施設「マスカー」について>

カタール国からの支援により約20億円を投じて建設された宮城県・女川町の多機能水産加工施設
(大型冷蔵冷凍施設)。女川魚市場買受人協同組合が所有・管理。

女川町は震災前、日本有数のサンマ漁獲量を誇り、銀鮭やホヤの漁獲量は日本の70%を占めた。町内
総生産の9割を水産業が占め、人口の半数が水産業に携わっていた。しかし、震災により7割以上の
水産加工施設が壊滅。そんな中、被災地復興支援プロジェクトに資金を援助するカタール国の基金「カ
タールフレンド基金」(総基金1万USドル、当時約100億円)による最初の大型プロジェクトとし
て採用され、約20億円(2,500万米ドル)の資金援助により、2012年4月に着工。同年10月15
日操業開始。「マスカー」とは、カタールの伝統的な漁法の名前。

「マスカー」は、震災で壊滅的な被害を受けた教訓から、世界に類を見ない最新の津波対策を施して
建設された。地上3階建ての1階部分はピロティ形式で、津波を受けると外れる外壁パネルを設置、
2階部分には貯蔵能力が約6,000トンの冷蔵室を配置し、3階には震災時の避難場所を備える。その
ため、レベルⅠ津波(100年に1回程度の発生確率)でも冷凍冷蔵保存した海産物を浸水から守るこ
とができ、レベルⅡ津波(1,000年に1回程度の発生確率)でも3階部分の避難場所を活用し、人命
を守ることができる。また屋上には太陽光発電システムを設置。再生可能エネルギーを活用するシス
テムも備わっているため、環境に配慮しているだけでなく、長期的には非常に経済的な施設となっ
ている。

● 2013年度グッドデザイン賞を受賞

評価されたのは、力強くシンプルな造形、津波の力を受け流す断面構成、充分な省エネルギー計画な
ど、実直な計画であること。また震災復興の中で、漁業を支える施設が、沿岸の低平地に極めて素早
く実現できたことの意義が高く評価された。

<カタールフレンド基金 について> (ウェブサイトより要約)

カタール国首長シェイク・ハマド・ビン・ハリーフ・アール・サーニ殿下は、東日本大震災直後に日本への 1 億ドルの寄付を発表しました。カタールフレンド基金も、シェイク・タミーム皇太子殿下がハーリド・ビン・ムハンマド・アル・アティーヤ外務担当国務大臣（当時）に命じて設立しました。議長はユセフ・モハメド・ビラール駐日カタール国特命全権大使です。基金のゴールは迅速に、効率的に、持続可能な方法で支援を行うことです。カタールフレンド基金は、重要で緊急性が高く、一時的ではない継続した支援を計画しているプロジェクトを選び、活動資金を提供します。支援を行う領域は、「子どもたちの教育」「健康」「水産業」「起業家支援」です。第一弾の大型プロジェクトとして、20 億円を投じ建設された多機能水産加工施設「マスカー」は、2012 年 10 月 13 日にオープンしました。

<女川町の地震・津波の概要・被害状況> (女川町ウェブサイトより)

地震発生日時： 平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分頃 ※津波到達推定時刻 15 時 32 分
規模・震度： M9.0 震度 6 弱
最大津波高： 14.8m (港湾空港技術研究所調査)
浸水区域： 320 ha (国土交通省被災状況調査)
被害区域： 240 ha (宮城県発表)
●人的被害
町人口： 10,014 名 (H23.3.11 時点) ※最新の人口：6,854 名 (H 28.2.29 現在)
死者： 574 名 (H27.3.1 時点)
死亡認定者： 253 名 (震災行方不明者で死亡届を受理された者)
住家被害
住宅総数： 4,411 棟
被害総数： 3,934 棟 (89.2%)
 (内訳) 全壊： 2,924 棟 (66.3%)
 大規模半壊： 149 棟 (3.3%)
 半壊： 200 棟 (4.6%)
 一部損壊： 661 棟 (15.0%)
避難状況： 最大 25ヶ所 5,720 名 (平成 23 年 3 月 13 日時点)
二次避難： 延べ 360 名

以上